

# やまと 民俗への招待

やまと 民俗への招待

鹿谷 熟

本欄で奈良市東九条町の餅搗き歌を紹介して、女性を評する「十七八」という言葉に触れたことがある（2017年12月20日付）。かつて年齢は数え年だったから、15、16歳ごろの女性を称賛したものだが、その時抱いた思いは、では反対に女性は男性をどう見ていたのかということだった。

新聞紙上で時折「シユツ」としている」ということばが話題になる。ある新聞は、関西弁の「シユツ」とは大阪・梅田の路上で聞くと、美しくすっきりと立っている様子をいつもので、おもに男性を褒める時に使い、自分には使わないという。ま

た別の新聞は、大阪の梅田と難波で聞いて、「あの人はシュツ」といふ」ことが多いが、野菜や建物、道、仕事にも使うといい、方言学の専門家によると、20～30年前に始まった言葉ではないかといふ。

ここで思い出すのは、親が息子に気合いを入れるなどに「もっとシャンとして!」とか「シャキッとして!」という言葉



## 男に求める「シャン」

連するように思える。

旧大塔村（現五條市）の窓谷に伝わる地狂言（眞指定無形民俗文化財）の中に「鐘引狂言」という全国的に珍しいものがある。その中で、主人が奥さんと坊主が酒を飲み、舞を楽しむ場面がある。舞の詞章に「踊り子をみたくば、きたさんがにざされよ。きたさんがの踊りは、ついた節がしゃんとして踊る節がねもしれない。せてもさてもわんぐりは」というのがある。「シャンとした」「シャンのぞうう。「シュツとした」とした状態になるた」もこれらの言葉に関

葉は音楽にも用いられたことが分かる。

窓町期の小歌には「しゃつとしたこそ人は好けれ」があり、女性から見た好ましい男性の姿が歌われている。「思えどわぬ振りをしてしゃつとしておりやるこそ底は深けれ」（以上『閑吟集』）、「我が思ふ人の心は淀川やしづかんとして淀川や底の深さよ」（宗安小歌集）ともある。男性はこうであつてほしいと女性が求める時の言葉として、長くこの系列の言葉が用いられてきたのではないか。奈良民俗文化研究所所長

表

隔週掲載